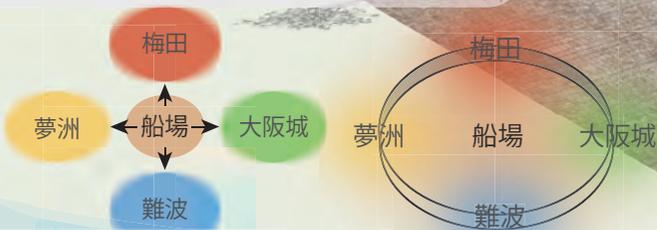


つなぐまち

船場は東に大阪城公園、西に夢洲が位置しておりさらには北に梅田、南に難波といった大阪の中心都市が存在し、大阪都心部の核となるエリアである。そのため、船場は「まちとまち」をつなぐ役割を果たし、船場自体も訪れたい魅力的なまちとして周囲のまちと一体化し、大阪の都心部を形成する。

また、緑・水・道路空間・公開空地・羊を利用して多様なコミュニティを形成し、まちとまちだけでなくまちと人をつなぎ、人と人をつなぐ役割を果たす。



まちとまちをつなぐ

御堂筋のように船場で東西をつなぐシンボル軸を整備する。シンボル軸は、側道の並木に覆われた緑のトンネルのような空間となり、通りたくなるような東西軸を実現する。

まちと人をつなぐ



①有効活用されていない公開空地を憩いの場として利用できるポケットパークとして整備する。緑化を行い、ベンチやテーブルを設置する。



②ポケットパークに接する道路を並木道として整備するとともに公開空地を持つ建物を緑化することでポケットパークを原点とした緑の線が広がる。

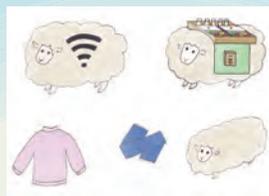


③点と線の緑化をまちに広げていくことにより、面的に緑がまちを覆う。



緑化の一部に「竹」を活用し、その竹を焼いた竹炭を河床に沈めて、水質の浄化を図る。これにより浄化した水をまちの中に循環させる。新たに水路や噴水をまちの中に設置し、憩いの場としての魅力的な親水空間を創出する。

ひとと人をつなぐ



まちに羊を散歩させ、羊を用いたWi-Fi機能の導入や物販サービスの導入により、羊を通して人と人が交流できる仕組みを作り出す。



まちなかにフードコートを設置し、外で気軽に食事ができる環境を整える。これにより、オフィスで働く人や地域の人同士の繋がりが生まれ、多様なコミュニティ形成への効果が期待される。



公開空地と道路の空間を歩行者専用にし、芝生化する。これにより従前は移動が主目的であった空間が、広場のような交流が生まれるスペースに生まれ変わる。